

【活動日誌291】資料のデジタル化

当館では、本学で使われてきた獣医学教育用の様々な資料を管理しています。その中には、古い時代の本学の講義内容を手書きで記した和綴りの冊子や、これまでに何度も取り上げている獣医学教育用の掛図が含まれており、これらの資料は特に重要な資料として管理しています。

当館では、これらの貴重資料のクリーニングとデジタル化を毎年少しずつ進めています。今年度は、手書きの講義録の中から本学の最初の姿である私立獣医学校時代のもの4冊のクリーニングとデジタル化を、掛図の中から実際に授業で活用されている様子を撮影した写真が残っているもの2点のクリーニングを、それぞれ実施することになりました。

先日は作業をお願いしている株式会社資料保存器材様にお越しいただき、打ち合わせと資料の確認を行った上で、処置の対象となる資料をお預けしました。対象資料の中には、歴史系展示室にて展示していた資料が含まれており、現在は一時的に展示を停止しています。

手書きの講義録は馬の治療に関する内容が含まれていることはわかっていますが、詳細内容は把握できていません。デジタル化をすることで取り扱いが容易になり、内容の確認作業が進むことを期待しています。

(学芸員 石井)

獣医学 # デジタル化 # 日本獣医生命科学大学 # 博物館

【活動日誌172】解剖スケッチのデジタル化を実施しました

<https://www.facebook.com/nvlu.wildlife.museum/posts/pfbid02DJ6xesgMgASeTFnb4tUkevWyyFBgmDWqgG6BGfikp8VM4mkdchQms3UDyeWJ8b7wl>

以前実施したデジタル化についての記事です。



- ① 作業内容と資料の確認を行う打ち合わせの様子。
- ② 和綴じ本についてはページ表記がないため、作業量を把握するために事前にページ数のカウント作業を行いました。
- ③ 今回作業する掛図の表装の確認の様子。

【活動日誌292】エミューの卵標本を作りました

当館では、動物の標本の一環として鳥の卵標本を収集しています。先日、当館の学芸員がエミューの卵を入手したため、博物館の資料として卵標本を作成することとなりました。

卵は2つで、大きい方は長径が131.5mm、重量は600gほどありました。エミューの卵は食用にもできるため、本学応用生命科学部食品科学科乳肉利用学教室の三浦孝之准教授のご協力を得て、食品製造実習室をお借りして、卵液を抜く作業を行うとともに、試食もしてみることになりました。

エミューの卵の殻は想像以上に硬く、これまで作業した際に使った工具のキリでは傷1つつかなかったため、電動ドリルでの穴あけを試してみました。細いドリルを使って数分試したところほんのわずかですが傷ができたため、そこをとっかかりに食品製造実習室にあった大型のドリルで、うまく小さな穴を開けることができました。卵液は注射器で穴から中に空気を入れることで取り出しました。

その後卵殻の中に何度か水を入れて注ぎ、最後に中性洗剤を混ぜた水で洗ってから、現在卵殻は乾燥中です。きちんと乾燥できたら卵標本として活用できるようになりますので、今後は展示等で活用していきたいと考えています。

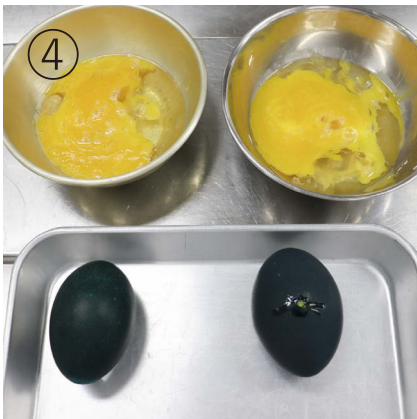
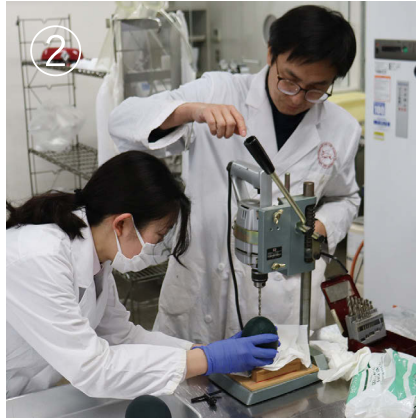
(学芸員 廣瀬)

#エミュー #卵 #卵標本 #日本獣医生命科学大学 #博物館

【活動日誌61】キジバトの卵標本を作成しました

<https://www.facebook.com/nvlu.wildlife.museum/posts/419873853203230>

以前キジバトの卵標本を作製した際の記事です。



- ① 細いドリルを使って卵殻に穴を開けようとしている様子。
- ② 細いドリルでついた傷にドリルの先を合わせて、穴を開ける様子。
- ③ 注射器で空気を入れて卵液を取り出す様子。
- ④ 2つ分の卵殻と取り出した卵液。卵の黄身は普通の鶏卵よりも黄色がとても鮮やかでした。
- ⑤ 食品科学科の実習で作ったベーコンと合わせてつくったスクランブルエッグ。卵の黄身が通常の鶏卵より赤みが少ないため、焼くとレモンイエローのような色になりました。関係者でおいしくいただきました。

【活動日誌293】キリン「長次郎」のクリーニングに向け 準備を進めています

1月22日の記事にてお伝えした通り、キリン「長次郎」のクリーニング作業を実施することが決まりました。クリーニングに伴い、ミニ展示にて公開していた長次郎の頸椎(首の骨)の展示を一時的に中止しており、ご迷惑をおかけしております。本日の記事ではクリーニングに向けた準備の様子をご報告いたします。

長次郎の骨格標本は長年一号棟にて展示されていましたが、昨年1月に解体を実施しました。この際に、右の腕から指先までの骨、腰から尾にかけての骨、といったふうに、骨のかたまりごとに連結された状態で回収しています。クリーニングではそれぞれの骨を個別に水洗いするため、ワイヤーで繋がった状態の骨を事前に一つずつ外しておく必要があります。そのため、古びたワイヤーを1本ずつカットして骨を取り外し、それぞれの骨にラベルをつける作業を進めています。

骨は、長さが60cmもある細長い中足骨(足の裏を構成する骨の一つ)から、3cm程度のそら豆型の手根骨まで、大きさも形も様々です。劣化により脆くなっている骨もあり、取り扱いには注意が必要です。骨を傷つけないよう、かつ取り外した骨が迷子にならないよう、注意しながら作業を進めました。

クリーニングは来週実施する予定です。作業の様子は改めてfacebookにて報告したいと思います。

(学芸員 石井)

#キリン #長次郎 #日本獣医生命科学大学 #博物館

■【お知らせ】長次郎骨格標本(頸椎)の展示を一時的に停止します

<https://www.facebook.com/nvlu.wildlife.museum/posts/pfbid03w68nGZnZmoQittw2JKP5rHisrE4rjMkpwzsXbNVVoNykVLWL8QMz4bwFayXhdK4PI>

1月22日の記事はこちらからご覧ください

■【活動報告】キリン「長次郎」骨格標本を解体しました

<https://www.nvlu.ac.jp/universityinstitution/news/20250123-01.html/>

解体時の詳細な記録はこちらからご覧ください



- ① 連結を解除され、ラベルを付けられた骨。
- ② 右前肢の指先を後ろ側(人と言う手のひら側)から見た状態。キリンは偶蹄類であり、人と言う親指・人差し指・小指がありません。一つ一つの骨が丁寧にワイヤーで固定されていますが、すべて取り外す必要があります。
- ③ 作業の様子。クリーニング中にラベルが外れてしまわないよう、一つ一つの骨に糸でラベルを結びつけています。

【活動日誌294】チーズの資料を移管していただきました

当館では大学史の資料として、学内で発行された資料や、本学の教員の研究に関する資料を収集しています。先日、食品科学科乳肉利用学教室の佐藤薫教授より、先生が研究されている国産チーズに関する普及資料をご提供いただきました。

乳肉利用学教室では、「海外のチーズにはなく、日本独自といえるチーズを創り出そう」という発想でチーズの開発を進め、世界初の麴菌を使用した日本オリジナルチーズ“麴菌熟成チーズ”の創出や、日本独自のブラウンチーズの開発などの成果を上げられています。

今回は、麴菌熟成チーズやブラウンチーズなどの普及のために制作された各種パンフレット等6種を提供いただき、当館の資料として登録させていただくこととなりました。

当館では今回ご提供いただいた資料のような、本学での研究に関する資料や本学が発行している広報資料等を収集し、大学史の研究や展示に活用しています。

(学芸員 廣瀬)

#麴チーズ #ブラウンチーズ #日本獣医生命科学大学 #博物館

■麴チーズ開発技術 開発秘話—日本の食文化を世界に！

<https://www.nvlu.ac.jp/food/report/teachers-055.html/>

麴チーズ開発の詳細はこちらをご覧ください

■食のいま 第72号：ブラウンチーズでホエイをアップサイクル！

<https://www.nvlu.ac.jp/food/blog/blog-072.html/>

ブラウンチーズ開発の詳細はこちらをご覧ください



- ① 麴チーズ・ブラウンチーズのパンフレット
- ② 麴チーズパッケージ箱、国産チーズパンフレットほか、普及用資料

【活動日誌295】企画展の準備をすすめています1

昨年末に報告をしてから時間が経ってしまいましたが、現在当館では日々企画展の準備を進めています。先日は企画展会場に置いたままになっていた大型の剥製を保管室に移動させ、新しく企画展にて展示するウマの解剖模型の搬入を行いました。

ウマの解剖模型は1月8日の記事にてご紹介したものです。8日の記事ではクリーニング作業中とお伝えしていましたが、無事クリーニングが終了し、元の輝きを取り戻しました。企画展では、ウマの解剖模型だけでなくウシの解剖模型もあわせて展示を行うことが決まっています。

企画展は3月14日のオープンキャンパスにあわせて開始する予定です。詳細は改めてご報告いたしますのでどうぞ楽しみに！

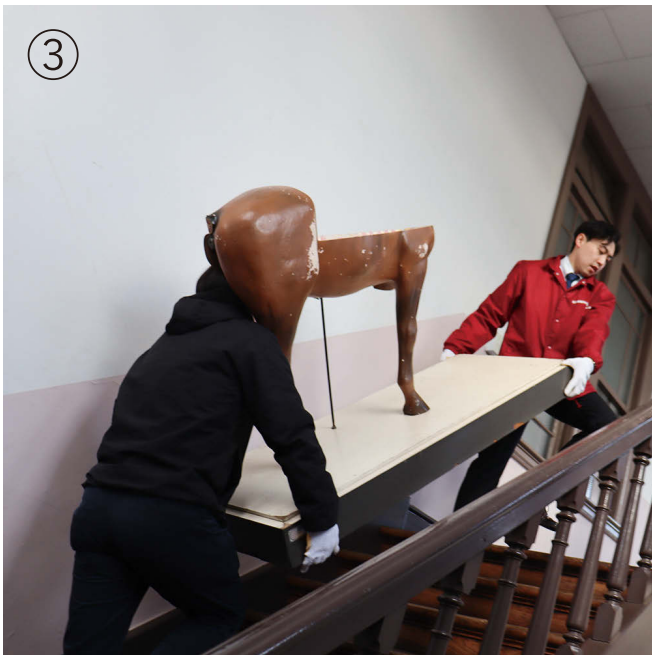
(学芸員 石井)

#驚異の部屋 #日本獣医生命科学大学 #博物館

■【資料紹介21】馬解剖模型

<https://www.facebook.com/nvlu.wildlife.museum/posts/pfbid0Qn37ALKzfWi89kRSh95qfnvqHwq9DzZAyzCDDMVNBbdqDYVe6ojF1ivJ2tMAVDFvl>

1月8日に掲載した記事はこちら



- ① 大型剥製の移動の様子。体の下に運搬用のロープを通して持ち上げます。
- ② 保管室に移動した剥製
- ③ ウマの解剖模型の搬入の様子
- ④ 解剖模型は一旦別の部屋に仮置きしてあります。左側に写っているのが本体、右側に写っているのが取り外したパーツです。